2024年3月期　決算説明会
質疑応答

2024年5月14日

新日本空調株式会社

2024年3月期決算説明会（2024年5月14日（火）開催）における質疑応答

No.	質　　問	回　　答
1	過去最高の業績を見込まれていますが、残業規制の強化や人材不足、地政学リスクを背景としたサプライチェーンの混乱、資機材の高騰など、リスク要因も多いかと思います。 それらを踏まえて、計画達成の確度についてコメントをお願いします。	2024 年度の受注目標は、手持ち工事量とのバランスを考慮した計画としています。 施工体制の構築を注視しながら時間外労働の上限規制を順守すべく、工期遅延による労務費を含むコストの増加や計画している案件への影響を与えないよう取組み、最終年度の完工目標を見据えた計画としています。
2	スマートエネルギーへの今後の展望について	スマートエネルギーは、既に様々な分野で取り組みが行われており、将来性のあるマーケットと認識しております。 当社としては、最先端の熱源最適制御システムであるEnergy Quest（エナジー・クエスト）での実績では24%の省エネを実現しております。 また、2023 年度では「熱負荷予測AI 機能」を搭載した「EnergyQuest® Cloud」を開発し、さらなる省エネ・省CO_2 とCloud 化によってさまざまな場所から遠隔監視ができるようになり、「EnergyQuest® CloudTools」を組み合せることで、お客様にて容易にシミュレーションすることを可能にしました。 省エネ性能において優位性を有していることをアピールし、拡大するスマートエネルギー市場を支えて行くとともに、この分野に注力してまいります。
3	PBR1.0%に改善する、あるいはさらに向上させる方策についてお聞かせ下さい。	中期経営計画で固めた戦略をしっかり進めていくことで、利益率向上と資本政策でROE10%以上の維持を目指し、政策保有株式の縮減、企業価値向上に向けた取組み、成長戦略の実行、投資家とのエンゲージメント向上に取組み、資本コストや株価を意識した経営の実現に向け対応して参ります。
4	完工総利益率の改善（+0.6pt）は受注採算性の向上や施工効率化等が寄与したとのことですが、利益の増減要因について解説をお願いします。	受注採算も若干上昇しておりますが、主な要因として原価改善であり、客先への技術提案や価格交渉を行い、コア業務とノンコア業務、アウトソーシングで対応することにより、現場におけるコア業務の効率が改善され、品質、コスト、 安全管理に注力を行い、工程を順守することで利益改善に至っています。
5	政策保有株式の売却に関して、受注活動に影響を与えることはありませんでしょうか。	政策保有株の方針として、当社は、良好な取引関係の維持・連携強化を図るうえにおいて、当社の企業価値の向上を実現する観点から、必要と判断する企業の株式を保有することがあります。こうした株式の保有については、取締役会で個別銘柄ごとに保有意義を総合的に勘案したうえで、保有または売却の要否を判断しておりますが、当初目標に掲げた2025 年度末までに2022 年度末比で20%の縮減を目指してまいります。 2023 年度は、約4%の縮減を行いました。 今後、16%以上の縮減を目指し計画的に行ってまいります。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

2024年3月期決算説明会（2024年5月14日（火）開催）における質疑応答

No.	質　　問	回　　答
6	24年3月期の利益面が過去最高と好調だが、増益要因を詳しく伺いたいです。	現場の原価改善が主とした要因であり、コア業務の仕分けと生産性向上により、利益率の向上に寄与しております。
7	株主還元につきまして、2029年度までに減配をしないということで、業績の見通しに関して強い姿勢が見受けられますが、どういった分野・取り組みを中心に成長を見込まれているのでしょうか。業界環境の見通しも併せて教えていただければと思います。	2025年3月期の株主還元については、 適正な資本効率を実現するため、連結配当性向30%以上、株主資本配当率のDOEの下限3%から連結配当性向30%以上を取りやめ、株主資本配当率のDOE の下限を5%に変更しました。安定した株主還元をお約束するため、2030 年3月期迄の減配を行わないこととします。さらなる還元については、今後の投資等を考慮しつつ、機動的に実施することとします。 業界としましては、産業関連が順調に推移しており、都市部における大型再開発も順調に推移しており、この2分野と海外の産業案件も好調であり、2029年度までの株主配当をしっかりと行ってまいります。
8	施工能力、繰越工事高、上限規制などを考慮して、今期の受注予想はマイナスを見込んでいるようですが、いまの事業環境を考えると、受注に限らず、売上高もかなり上ぶれる可能性はあるのではないでしょうか。あと利益面の質問として、労務費や輸送費の影響は、どの程度、及んでいるのでしょうか。	受注高と完工高については、手持ち工事量とのバランスを考慮し、計画を立てています。 施工体制の構築を注視しながら時間外労働の上限規制の順守も鑑みて、完工目標、売上高の計画を立案しています。 手持ち工事量の消化については、現状、現場担当者も確保できており、進捗に問題はございませんが、今後についても同様にしっかりと計画を立て対応致します。 労務費、材料費につきましては、個別案件ごとに違うため、一概にお答えできかねますが、一般的に運送費、労務費は上昇しているため、適正な見積もりを行い、デジタル変革に伴う作業効率化を図り、対応しています。
9	産業案件、都市部大型再開発が順調とのことですが、可能な範囲で具体的にご示唆いただけますでしょうか。	案件名は差し控えさせていただきますが、電子デバイス工場（半導体、電子部品）、データーセンターを中心とした産業案件や大型再開発に伴う、複合施設ビルなどが順調に推移致しました。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

SUSTAINA-FULL!

エンジニアリングで、人と自然に満ちたりた調和を。



私たちが暮らす社会の永続には、
自然界とのベストバランスの
維持が欠かせません。
果てなきサステナブルへ。
SNKはエンジニアリングパワーで、
人と自然、社会と地球の
あるべき調和を追求します。

Fill your tomorrow

snk
新日本空調株式会社